



相互提案型協働事業実施報告書

平成25年4月26日

座間市長 様

団体 住 所 座間市四ツ谷 718-1

名 称 不登校・ひきこもり居場所あすなろ

代表者氏名 庄 村 邦 子



市 担 当 課 青少年課  
 所 属 長 課長 加 藤 保  
 教育指導課  
 課長 日 極 忠  
 生涯学習課  
 課長 伊 波 俊 行



次のとおり報告します。

1 事 業 名	座間市不登校・ひきこもり支援活動の推進
2 事 業 形 態	<input checked="" type="checkbox"/> 市民活動団体提案協働事業 <input type="checkbox"/> 市 提案協働事業
3 選 考 年 度	平成23年度選考 (平成24年度実施)
4 報 告 期 間	平成24年4月1日から平成25年3月31日まで
5 事 業 費	952,452円 (内座間市支出分 500,000円)
6 事 業 概 要 (事業内容等を450字以内で御記入ください。) ※詳細な報告は、別紙事業評価シートに御記入ください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常活動時間の延長 (火・木曜日午前10時～午後3時) 従来の農作業・食事作り・絵手紙・小物作りの他スポーツ・パソコンの日を設置</li> <li>・臨床心理士相談日設置 (全6回 相談者13)</li> <li>・県内の支援団体と連携して、あすなろっこ祭りを実施して周知活動と地域の人達の理解を図る。</li> <li>・交流活動として座間市適応指導教室つばさや、NPO法人CLCAとうどん打ち会と餅つき会を実施</li> <li>・「発達障害の理解と対応」について、講演会の実施</li> </ul>
7 添 付 資 料	<input checked="" type="checkbox"/> 収支決算書 <input checked="" type="checkbox"/> 事業詳細報告書 <input checked="" type="checkbox"/> 事業記録写真 <input checked="" type="checkbox"/> チラシなどの広報資料 <input checked="" type="checkbox"/> 作成した冊子などの資料 <input type="checkbox"/> その他 ( )

相互提案型協働事業評価シート

事業名	座間市不登校・ひきこもり支援活動の推進
-----	---------------------

1 協働事業の成果

協働事業により設定した事業目的が達成できたか、市民ニーズに効率的、効果的に対応できたかなど、事業の成果について評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
事業の達成度	所期の目的は、十分達成できましたか。	事業目的を達成できた。
	協働事業として、達成できた。唯不登校・ひきこもり支援活動は長期間を必要とする事業であり、支援は尚継続の必要がある。	
事業成果・効果	事業を実施したことによる成果・効果について、具体的に記入してください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周知方法を、広報・ホームページ・市内施設掲示、配布・タウンニュース・自治会回覧などを利用したことにより、参加者数が目標に達することができた。特に自治会回覧が効果的であった。</li> <li>・各会場の確保については、ほぼスムーズに確保できた。</li> </ul>
	<p>活動時間が10時～15時になった事で来所してくる青少年達が余裕をもって活動するようになった。またあすなろっこ祭りや臨床心理士相談・発達障害の理解と対応についての講演会の開催によって周知の効果があり訪問や問い合わせが増えてきている。</p> <p>9月9日のあすなろっこ祭りは150名の参加・1月26日の発達障害についての講演会は一般参加人数は89名で発達障害の関心の高い事を実感した。</p>	

2 協働事業における取組

事業プロセスにおいて、計画段階から完了まで良好なパートナーシップが発揮されたかについて評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
目的・目標の共有	十分な協議や調整により、事業目的や課題に対する共通の認識を持つことができましたか。	事業を共に実施したことにより、共通の認識を持つことができ、より理解が深まった。
	協働事業初年度という事もあり初めは協議方法に躊躇があったが、事業が進むにつれて担当課と連絡調整を何回か行い、理解した上で事業を推進してきた。	

事業の進行管理	進捗状況について情報交換を行うとともに、必要に応じてスケジュール等の見直しを行うことができましたか。	
	臨床心理士相談・あすなろっこ祭り講演会等実施については、その前後に情報交換、説明、チラシの検討及び配布の方法等検討し、双方で相談をしながら実施をした。	進捗状況について、連絡を取って情報を共有し、準備・実施を行うことができました。
対 等 な 関 係	協働の相手として、対等な立場で協議することができましたか。	
	協働事業として常に担当課と相談、検討を重ね、対等に意見交換ができた。	協力して事業を対等な立場で実施することができた。
相 互 理 解	相手の立場や組織の特性の違いなどを理解し、互いに補える関係が築けましたか。	
	官と民の組織上の違いは勿論あるが、検討を重ねるうちに違いを超えて、担当課とあすなろ担当と信頼感をもって相談や実行にあたることができた。	それぞれの役割を分担し、市と団体の経験と信用のつながりを活用し、お互いが協力して事業の実現に向け、活動できた。

### 3 協働事業における役割分担

役割分担は適正であったか、役割を果すことができたか、相乗効果を発揮することができたかなどについて評価します。

役割分担の内容	役割分担の内容を具体的に記入してください。	
	<p>(団体の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通常活動の実施 農作業・食事作り・絵手紙教室・小物作り・運動・パソコン等</li> <li>・ 相談業務・HP作成・あすなろ通信発行・他の機関との交流</li> <li>・ 講演会や祭りの実施や参加を通じてスタッフのスキルアップを行い支援活動を円滑に進めていく。</li> <li>・ 座間市民ふるさと祭りバザー部門に参加</li> </ul>	<p>(市の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報などによる事業の周知、公共施設等ポスター&amp;チラシ配布</li> <li>・ 受講者の募集受付や会場の確保</li> </ul>

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
適正さ	役割分担は適正なものでしたか。	
	協働事業における役割として実施しており適正である。	適正であった。
実施結果	設定した役割分担を果すことができましたか。	
	あすなろ事業の実施結果として概ねその役割を果たしてきた。特に、あすなろっこ祭りは、担当課の協力によってスムーズに実施できた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割分担を実施できた。</li> <li>・「あすなろっこまつり」は、お互い初めての事業であったが、ほぼ予定通り実施できた。次年度は、更なる団体の参加と来場者をめざし、企画していきたい。</li> </ul>
協働による効果	それぞれが単独で実施する以上の成果を上げることができましたか。	
	臨床心理士相談や講演会の問い合わせ参加者の受付等担当課が受け持ってくれた事で、出席人数の増加拡大が図れた。またあすなろの訪問及び問い合わせが増えてきた。	講演会等の開催について、市のみの開催でなく、協働で行うことにより、和やかな手づくり感のある雰囲気になって、参加者も気軽に参加できるように感じた。

#### 4 今後の具体的な展開

事業の波及効果	今後、実施事業をどのような形で展開していくことが望ましいと思いますか。	
	<p>（団体の考え）</p> <p>不登校・ひきこもりは家族の問題だけではなく社会の経済的背景や先の見えない不安感で尚増加している。不登校からひきこもりとなり、そのまま高齢化していく現状があり、この人達をどのように社会参加できるようにするか社会的問題として捉えていく必要がある。この様な青少年の将来を考えると一団体としての事業ではなく、公共性としての必要性があり、官民共に協力して支援していく事がこれからの問題である。特に県央地区は不登校ひきこもりの当事者や保護者のための居場所が少ない現状があり、あすなろとしては公設民営化を目指していく事が課題である。</p>	<p>（市の考え）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「あすなろ」を居場所として広く周知するとともに、関係機関・他団体とのネットワークづくりを進めていく。</li> <li>・「あすなろ」の事業を継続していくうえで、安定的な人員確保は不可欠であり、スタッフの確保について積極的に進めていく必要がある。</li> <li>・相談者については、県等関係機関及び市相談室と連携し、適した相談窓口の案内など、総括的に支援していく。</li> <li>・公設民営化については、関係課と市民協働課を含めた中で検討していく。</li> </ul>